

名古屋大学大学院国際言語文化研究科
日本語教育学講座第1回講演会

**On the Discrepancy between
Unacceptability and Ungrammaticality**
(文の非容認性と非文法性の不一致について)

北川善久 (Dr. Yoshihisa Kitagawa),
インディアナ大学言語学科

(Department of Linguistics, Indiana University, USA)

日時: 2009年6月3日(水)午後5時半から午後7時まで(約90分)

場所: 名古屋大学東山キャンパス全学教育棟C40号室

(以下のアクセスマップの41番の建物です。)

<http://www.nagoya-u.ac.jp/global-info/access-map/higashiyama/>

使用言語: 日本語 (質疑応答は、英語でも可能)

問い合わせ: 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語教育学講座
玉岡賀津雄 (ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp) まで。

講演の要約:

生成統語論は、過去半世紀にわたり理論の改変、精巧化を通して急激な発展を遂げてきた。しかし、そのような理論的洗練の追求にくらべて、具体的なデータの収集やその処理などに関する方法論の追求にはさして労力を費やしてこなかったと言える。そのため、研究の根幹をなすべき言語観察に関して研究者の間で必ずしも同意が得られず、基礎として蓄積されるべきデータが不安定であるという状況に直面することが多い。今回は、実験を通して入手した日本語の使役文の容認性判断に関するデータを統語論と統計の両方の観点から分析することによって、文の非容認性と非文法性の区別を見極めるための研究法の試案を提示・議論したい。

講演者の詳細:

<http://web.cc.ntnu.edu.tw/~ting/Yoshihisa%20Kitagawa.htm>